

# 東京都北区中央図書館 中央公園文化センター 再生計画

小西芳博

制作主旨

現在北区にある地域施設を時系列的に調べると、中心的な役割を担う中央図書館は30年以上経過し老朽化しており、一般的な雑居ビルのように、図書館としてふさわしいとは思えず、区役所も改築を検討し始めた。そこで、この中央図書館を6.4haの広大な公園に移転させた。ここには昭和5年に陸軍東京第一造兵廠(兵器工場)として建てられ、現在は中央公園文化センターとして利用されている建物があり、ここに中央図書館の機能を導入させ、新たな図書館を含んだ地域施設として再生させる。

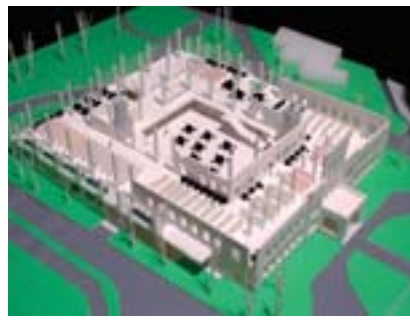
正面ファサードがシンメトリーな建築は、後ろ側の部分が裏口としてのみ使われており、マイナスの空間となりがちで、そのような裏の空間をプラスにするためにアトリウムを導入することは有効だと思う。そして来館者はこの空間から自分の目的とする機能へとアクセスし、また中央が抜けることにより回遊性が発生することになるので、2階の図書館では書架を円周上に配置し閲覧席をこれに添うように配置することにした。そうすることによって従来の書架と閲覧席が分離しているのではなく、融合した関係になる。

講師評：若色峰郎

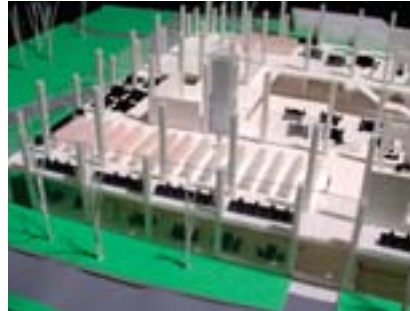
近年、古い建築物を改修・補強して、新しい機能をもつ建築として再生する試みが数多く見受けられるようになった。建築を都市との関連性の中で捉えるとき、歴史的な建築物は、その街の都市環境をつくり出す上で重要な手掛かりとなるはずである。特に公共建築物(地域施設)は、その地区のランドマークとして位置づけられるため、市民の共通認識や評価を得て都市のストックとなる必要があると思われる。

この提案は、北区の旧陸軍の建造物を改修し、更に区の中央図書館としての機能をもたせるために増築を行ったもので、その着想は評価できる。空間構成として、現建築物と新しい建築物を構造的には分離し、アトリウムを介在させることによって新しく創出された情報ラウンジを設けている。このアトリウムによって両者を機能的に融合させ、地域図書館として利用者に分かりやすい図書館計画を意図したことは理解できる。

一方、本計画の敷地は北区中央公園の一角にあり、旧陸軍の建築物はシンメトリーで正面性の高い建築物のため、増築部分をどう関連づけるかが、この提案の空間構成上の大きな課題となったが、結果としては公園側には、あまり開かれていない形になっている点が惜まれる。



2階



2階図書館



3階メディアコーナー

